



太陽と月の
交わる瞬間の

太陽と月の
交わる瞬間の





太陽と月が交わる瞬間

※この本は太陽と月のシリーズ最終巻です。
アラジンちゃんのお返事をしたあとの覇アラちゃん話になります。
今までの展開がだいぶ本誌からずれていっていたので
いろいろ本誌とは違う点がありますが
マグノシユタット編最後らへんに帳尻をあわせつつの話です。

前書

ここにちは、1に2です。
この本をお手にとり
いただきありがとうございます。
でございます。

この本は、太陽と月とか天体について
名前がついてる本達の完全な話に
なります。

“月が見える夜に”から
はじまり、

= 太陽から月への手紙 = か
前回では = 0

この本を読む前にこちらを
読むことをおすすめします。

あらずじとしては、唯一と^①思った子に
②「紅霸くん、ふらふらやいましたーけし」
「なんかおかしいーけし」なんなの!!

この

Tのふて"いたT"たたらいいなと。

エエエエ
← 天と地



私はあの後
アラジン殿に

何かあったとしか
思えません

きっと、アラジン殿は
紅覇様のことを…

むく…

純々

いいんだよ、
もう

わかったんだ…
僕一人が

そう思ってたって
仕方ないんだよ

紅覇様…



どういうこと…
アラジン

聞こえなかったのかい？

聞こえたよ…っ！



なんで、なんで、
アラジン
僕のこと好きでしょう

僕ね、あれから
よく考えたんだ
紅覇くんのこと
ちゃんと

紅覇くんことは
好きだよ、
でも

それは紅覇くんと
同じ、好きじゃないんだ

紅覇くんにはちゃんと
僕じゃない別のひと
幸せになつてほしいんだ

その方が
幸せだと思うから

それにさ

僕も男の子なんだ
誰かを恋愛という意味で
好きになつたことはないけど

やっぱり紅覇くんを
そういう対象にみることは
無理だと思う

…ごめんね
紅覇くん



なんで…
だつて

昨日はあんなに…

ちよつと
面貸しなよ
おまえ

つまり、昨日まで
デレデレだった
アラジンが
いきなりのツンになつて

す・す・す

そしてふられたと

昨日まで
抱きついてきたり…
それははじめてのことだったけど
そんなに悪い感触
じゃなかった人間が
急に態度を変えるなんて
おかしいとおもうんだよね…

へへえ…

しかし、
やつぱり
ふつちまったか…

は!?
やつぱりって
何!?

俺もあいつが
お前のこと
そういう対象に
見てるって
思ってたんだよな

なんで…

お前、皇子だし
いつか嫁を迎えるまでの
暇つぶしじゃないのか?
みたいなこと言ったら
あいつシヨック受けてたみたいだし…

まさかお前が
原因じゃないよね!?

僕は
違うと思うな



でもそれはきっと誰にも
解決することはできない、と
おもってるんじゃないかな？

だからきつと
アラジンは

.....

一人で
泣いてたんだ.....



これでよかったんだよね
でも...

紅覇くんは
ひどいことを
言ってしまったね...

...もう二度と...
口をきいては
もらえないかもしれないなあ

それだけのことを
僕はしたんだから





二回目の交渉も決裂しました
もういいいよ、こちらの国に
後はないでしょう

…そうかい、それは
なんとか
ならないのかい…？

キア…ッ

私にはなんとも…

…アラジン殿…
いまなら間に合います
紅覇様に本当の気持ち
をお伝え下さい…

何を言ってるんだい…
僕の気持ちは…

嘘を
つかないでください！

私にはわかります…！
紅覇様のことを知りたいと
仰ってくださいったあの時の気持ちに
嘘はないのでしょうか？

それは少しでも
紅覇様の気持ちに
近づこうと
しようとしてくれたのでは
ないのですか!?



僕だって
紅霸くんは
いい人だって思うよ！



どうしてです！
あんなに素敵で優しい方は
他にいらつしやいません
のにい！

わああ
泣かないでくれよ！

なんで…！



僕はおねいさんに
泣かれるのに弱いんだ

わかった、わかったよ、
言うから…
泣き止んでくれよ
おねいさん…



わああ
泣かないでくれよ！



ではなぜ！
紅霸様を
袖にあしらうようなことを
されたのですか…！

えええええつ



紅霸くんには
言わないでくれるかい？

はい…
お約束します



ありがとうございます…
いいのでしょうか
勝手に私が
お邪魔させて頂いて

座ってよ
おねいさん

いいんだよ
おねいさんなら
大歓迎さ！

スファイントスくんは
今日は遅くなるって言うし

それに…この話は
誰にも聞かれない
んだ



ねえ、おねいさん
僕がマギってことは
知ってるよね？

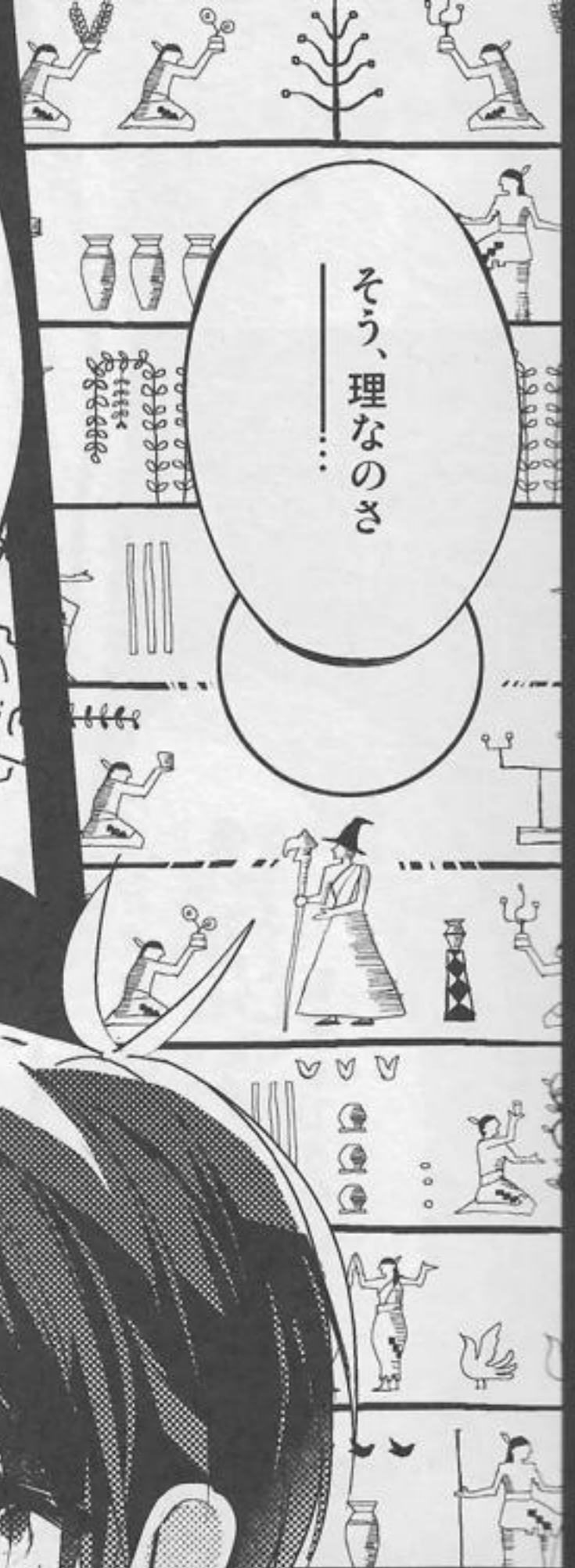
はい…



そう、
僕はマギなんだ

でもマギは世界で
3人だけしか
今までいなかったよね？

はい、
それが世界の法則だと
聞いたことがあります



そう、理なのさ

マギが何人もいるこの事態は
本当はあつては
いけないことなんだよ

世界が互いの力の
影響で歪み、
壊れてしまうことだって
あるからさ

でも僕はここにいる、
それは僕は、この世界の
マギじゃないからなんだ

僕は使命があつてここにいる、
それだけが存在理由さ

マギは転生が
許された存在だけど、
僕はこの世界のマギじゃない

四人目のマギにはなれない

きっと僕の使命が終わった時、
存在理由のなくなった僕は：

消えてしまおう

僕の世界はもう
存在さえしていないから
きっと、転生もできない

…そんな

消えた後
残った紅覇くんは

後悔するんじゃないかな？
好きになるんじゃないかな？
辛い思いをさせてしまう…

紅覇くんにとって
そんな存在になりかねない

僕は
そばにいたべきじゃないと
おねいさん達も
そう思うだろう？

大丈夫、紅覇くんは
きつとすぐ僕のことなんて
忘れてくれるよ…

ううん

そんなこと…っ

ないです…

僕は、忘れてほしい

きつと紅霸くんは
素敵な人だから
また別の好きな人と
出会えるかもしれない

それは
早いほうがいいなって

いつか出会えるかもしれない、
その人がいるのに
僕が邪魔しちゃうんだ

僕はね、
紅霸くんにも
好きって言ってもらって
優しくしてもらった
それだけで十分さ

僕は
おまえが

これは独りよがりだって
ことはわかってるよ…

でも

紅覇くんには幸せになってほしい

違います…

なぜか言えなかった…

紅覇様はやっと
出会えたんです…

唯一の人に

違いますよ…

紅覇様には…

あまりにも悲しそうに
笑うから…

00

貴方が必要なのに…

貴方じゃなければ
ダメなのに…

モガメット様…!!

レームの船を確認しました



ついに来たか…

忌々しい

ゴイ
非魔導師たちめ…

滅ぼせ

全て

それが戦争の幕開けだった——…

ごめんね、紅覇くん、

本当にごめん、君の気持ち、
とても嬉しかった

レームの民たちよ
自分の国へ帰っておくれ！

でも僕は



マジック・オブ・ザ・マジック

レーム停戦後

!?

アイツら
逃げるぞ…!

なんで
こっちは
来ねえんだ!

狙いは
レームじゃないんだ…!

紅覇くん…!

紅覇くんが
危ない…!



あの形は…
アルマトランの時と
同じ…

このままじゃ
ダメだ…！

おい
アラジン

こっちは俺に任せて
行けよ！

うん！
わかった

はいはい

は

あ

紅覇くん……!

っ!

アラジン……!
何でココに!?

っ……

ごめん
紅覇くん

どうして……

アラジン……

早く……

アレを

放つてはおけないんだ……っ
だから僕も一緒に
戦わせておくれよ……!

このままだと
僕の故郷と同じよう
滅びてしまうから……っ

コッ

あれが……

ねえ

あいつを倒すと
おまえはきえるの……？

消えないよ
アレはただの
黒いジンだ

僕たちはこれから
『暗黒天』を塞がなきゃ
いけないんだ

あのおねいさん
秘密にしてくれるって
言ったのに……

でも
僕の使命は

あの悲劇を
繰り返さないための王を

世界の王を
導いて
いくことなんだ

お前の鎖が

紅覇様……！

あれが……

そう……



紅覇くん……!

…チツ
肋でもやられたかつ

紅覇くん
今回復魔法を…っ！

今のおまえに
僕は

近寄らないで
アラジン

助けられたく
なんてない

…なんで…っ

おまえは『あれ』をなんとか
しに来たんでしょ…？

はあ…

はあ…

僕にかまってる暇、
ないんじゃないの

ねえ
アラジン

いずれ消えるって
おまえは言うけど

はあ……

そんなの、僕だって
だれだってそうだろう

はあ……

いつ死ぬかもしれない、わからない

こうやって怪我をするかも
病気で死ぬかも

そんな先の未来に怯えて
諦めるなんて馬鹿げてる

アラジン……



お前は思わないの？

好きな奴が
目の前で苦しんでたら
助けたいって思う

僕ならおまえが
消えないように
どんなことだってする

僕はお前といたい、
ただ、そう思うから

解決方法をみつけるだけだ
助けてくれる仲間だっている

君も

おまえは
もっと周りを見るべき
なんじゃないの？

アリババさんと
同じようなことを
言うんだね…

ねえ、お前は僕をどうおもってるの

答えなよ

なんでおまえは
僕を今助けたいと
思ったの

嘘もいらない

同情もいらない…っ

ドク
ドク
ドク

救いたかったら

僕と共に
人生を歩む
覚悟くらい持ちなよね……っ

紅覇様……!!
危険です!!
離れてください……!!

紅覇様……!!

ごめん

僕…

紅覇くんがいなくなるの

ああ

いやなんだ…

ぽろぽろ

ぽろぽろ

それがおまえの
本当の気持ち…

はい…

さあ

紅
く
ん

うん、僕も

おまえが
いなくなるのなんて
嫌だから

あああ…

紅覇くん

僕はやっぱりマギだから
このまま戦い続けると思う

いつ
消えちゃうのかも
わからない

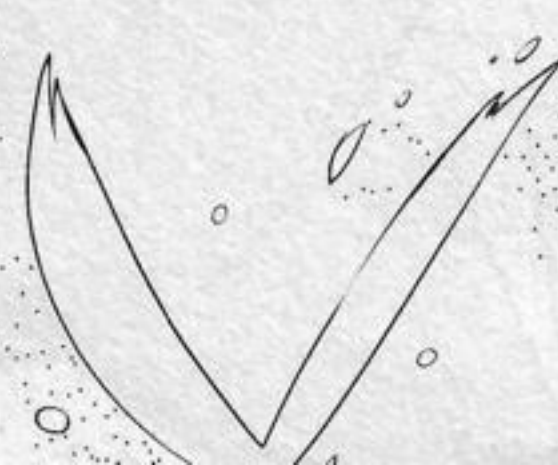
けど...

おおおお...



それでも
紅覇くんと

一緒にいたって
思っちゃったんだ





何、起きたの？
アラジン

う...？

は

ち



ごめん！
紅霸くん！

あーあーあー

大丈夫かい!?

ってなんで僕は
紅霸くんの上で
寝てるんだい!?

ああ、炎兄たちと話した後
おまえ
痛れて寝ちやつたんだよね

え

だから僕の部屋に
運んだんだけど

おまえ
僕の手をずっと
握ってて
放してくれないからさ

ごめんよ
ケガに
響いてないかい?

うん、おかげで
ちよつと傷が痛いかな...

あーた

ごめんよ...

紅霸くん僕に
できることがあったら
なんでも
言っておくれよ...

うん

じゃあ
やってもらおうかな

...

アラジンからキスしてよ

キスしてくれたら治るかも

あああ

え

僕のこと選んだんだから
できるでしょ?

え、でもあれは…

何

あれはでまかせだった
っていうの?
僕と緒にいたいって

やっぱり
嘘で…

わ、わかったよ
キスするよ!

あああ

あ
傷が
治ったかも



キス、もつと舌絡めて
いつも僕が
してたみたいに

ふあ…っ

ん…っ

ん…っ



うれしい…

いつも
僕からだったから…っ

アラジンから
キスしてもらえるなんて
夢みたいだ…

……んっ

あー…やっぱり
嘘だったんだ？

僕をえらんだのは
ただの
同情だったんだね…

わかった
するから…!!
するからあ！

あつ…!!

お前の手じゃ
まだんりだろうから
ほぐすのは僕が
やってあげる

なんだがうまいこと
丸め込まれてるような…

ほら、そろそろほぐれてきたよ
僕の指三本も
お前の中入ってるの
わかる…？

そな…こと
いわない…でっ
おくれよっあ

うあ…っ

ほら、僕の出して
これを自分で
入れるんだよ
…？

う~~~~っ
大きいよう…っ



はま

……

あ……う……

はあ……

ほら動かないと
いつまでたつても
僕いけないんだけど？

紅覇く……

おまえのはもう
はじけちゃうくらいそうだけどね
……？？？

ひい
あああ！

ね、早くしなよ

自分で
腰振ってさあ
僕を
喜ばしてみせなよ

ぽ。

僕、紅霸くんのこと
す、き…好きだよ…

そんな…っ

ぽ。

できな…っ



信じてもらえないかも
しれないけど
あんなこと…言っただけ
でも…っ

本当は…っ
好きなんだ

でも、こんなこと…っ
できないよおっ

イジメないで
おくれ…っ

…っ



アラジンが
散々僕のこと
弄ってくれたから
イジメてあげようと
おもってたさ〜

僕…そんな…
つもりじゃ…

わかってるよ、
でもねえ、
僕…
傷ついたんだよ？

そういう対象に見れないとか
言われちゃってさあ〜？

紅覇くん…っ

ごめ…っ

ごめんで済むと
思ってるの？

しっかり、身体で
払ってもらってから
覚悟してよね



何言ってるの
アラジン
まだまだ…っ
イけるでしょ？

やあ…っ
おっ…っ

ひゃあ…っ

ひゃあ…っ
やあ…っ
おっ…っ



ごめんなさ…っ
やあ…っ…!!

許してっ
もう…っあ

おな、か
破裂しちゃうよお

紅霸く……っ

…バカだね
おまえ

ああ余裕ないかも
今の僕……っ

ほんと……っ

ほあ

ひどいこと言っ……っ
ごめ……なさいっ

ごめ……つなさ……っ
ひいあ……っ！

ほあ

ひゅ……

そんなの……っ
あの時許……っ

僕を選んでくれた
あの時から……っ

この子の
全部が愛おしい……っ

今、この子の
頭のなかには

ね、キスして
アラジン……っ

ん……っ

アラジン……
好き……っ

大好きだよ

きゅん

ハッ

うん…っ
僕もね…っ

トク
紅霸くんのこと
好きだよ…っ

僕のことばかりだ

こんな…っ

嬉しい事って
あるんだ…っ

ああ、これが

愛しあうって
ことなんだね…

アラジン殿
申し訳ありません！

約束を
破
え
し
ま
い

え、いいよ！

いいよいいよ！
気にしないで
おくれよ……！

紅覇様は
私達を救ってくれました、

だから
アラジン殿のことも

救ってくださるって
思ってたんです

だってあなたは
紅覇様を救ってください
唯一の存在なんですから

そうだね



きっとこれからいくつもの
困難が待ち受けているだろう

二人が一緒なら
きっと...

でも
それでも僕は

乗り越えていける
そんな気がするんだ



りここ

2013.12.29

mentaimayo@simapan.kirara.st

日光企画様

無断転載禁止、オークション出品禁止

